

世の中の仕組みは 教科書を読めば分かる。 だが、そんなものが 何の役に立つのか？

【愛】(一)人類がもれなく罹る病で、誰かのために命を投げ出してもいいという押しつけがましい思い込みのキザな言い方。(二)本辞典のどこを開いても存在しない概念。

【相槌】女性との会話で男性が事故を起こさずに済む行為。また、会話中、他のことを考えるためにする首振り運動。

【悪役】物語において魅力的に見える側の役柄。

【一年】小学生の感じる永遠、老人の感じる一瞬。

【引力】物体と地球、猫と鯉節、政治家と金の間に存在する力のこと。

【映画館】運が良ければ感動を得られ、悪くても睡眠不足を解消できる優良娯楽施設

【嘘】それがないのが、人類が土地を奪い合う理由のひとつ。

【オリンピック】四年に一度開催される製菓業界の見本市。

【核兵器】死神の落とし物。20世紀以降、拾い主はしばしば現れるが届け出る者は現れていない。

【記憶】強く頭を打つ、過度にアルコールを摂取する、政治家になるのいずれかで失うことができるもの。

【期待】親が子に負わせる砂袋入りのリュックサック。

【喫煙者】寿命を削って税金を払う愛国者。

【毒気】おおよそ窒素8割、酸素2割からなる気体。かつては吸えば生きていけたが、今日では読めな生活に支障をきたす。

【警察官】あなたの払った税金で雇われた、あなたの粗を探し拘束しようとする者。

【結婚】夢の終わり。現実のはじまり。

【再婚】前回、辛くも危機を脱した主人公が再び難事件に挑むサスペンス映画の続編。

【サッカー】足でボールを蹴りながら、手で相手のユニフォームを引っ張り合う、紳士の国発祥の

スポーツ。

【十六】出版編集者を縛る悪魔の数字。

【授業】学校の教室で流れる五十分間の子守唄。

【スマートフォン】所有者というストラップの付いた高性能な携帯電話。

【税金】役人にとっての打ち出の小槌。

【世界地図】美しい惑星である地球に国境なる醜悪な線を引いた図面。

【絶滅危惧】アオサドリ、カミナリオサジ、町の書店など、絶滅の危機に陥る存在のこと。

【相談】宿望も何も持たずとも聞かせる、確かな助言をくれる、心細くも頼むことのできる、的外れなく毎晩現はれる匿名相談員。

【探偵】物語の中では事件を調査し、捜査する他人の浮気を暴くのも卒業させる職業。

【読者】悩みごとを書籍に託す人。

【風】(一)油虫と並ぶ、人類の同居者。(二)魔法を浴びて暮も得をしている生物。

【脳】この世のあらゆる厄災が詰まっていたびんぎの箱。

【ビール】泡と税金の両方をも含む飲料。愛飲者はこれを飲むことで、それなりの幸福を感じます。

【異形種】あなたの頭部や首元で動物化するがせながら、あなたの懐から金銭を抽出する魔の異形種。

【漫画家】賞金が多岐にわたるクレイジーの挑戦者。

【マイル】経済援助、食料援助、技術支援などを引き出すための国家戦略的マイルストーン。

【約束】人間の口先。または指先から発行されるペラペラで簡単に破れるマイルストーンのこと。

【憂鬱】日曜の夜、もしくは月曜の朝に様子を伺いにやって来る巡回警備員。

【異】女性から尋ねられる「どっちが似合うと思う？」という質問。

【腕力】結局のところ、世の中これで決まる。